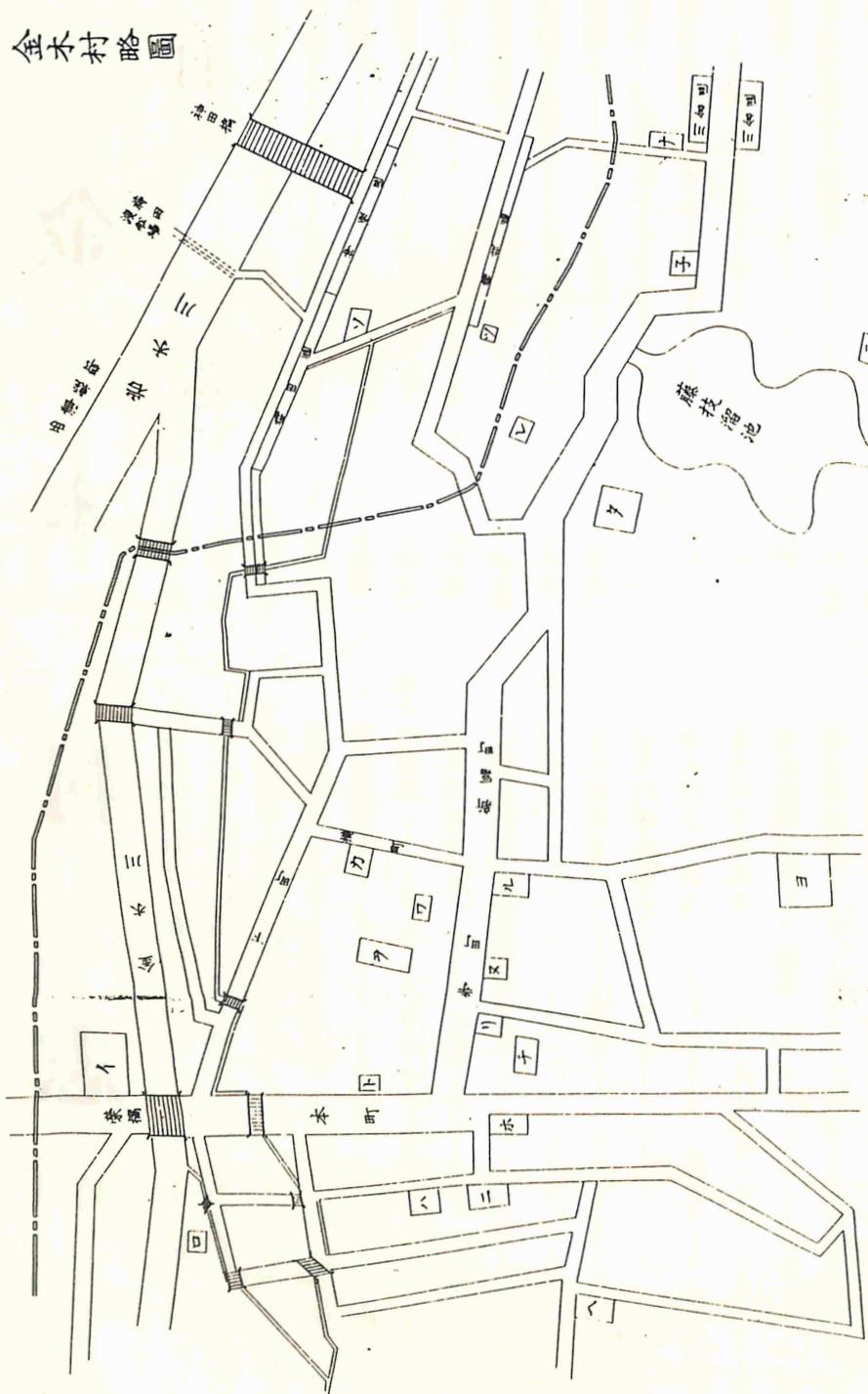
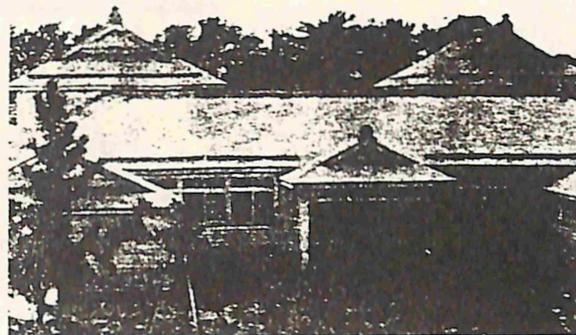


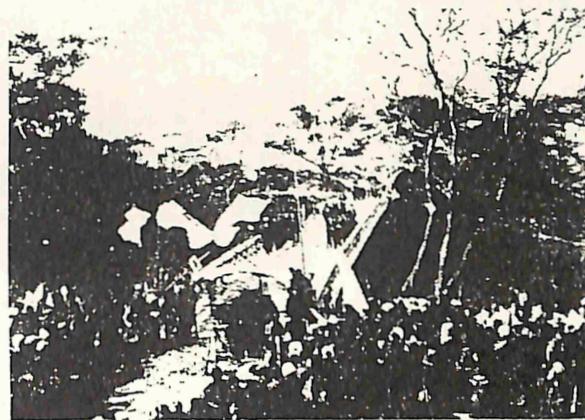
金木村略圖



- 九 例
- ⌋ 輕便鐵道
 - イ 金木第三尋常學校
 - ロ 金木公會場
 - ハ 普賢堂 觀音堂 宗廟
 - ニ 金木村役場
 - ホ 妙來寺
 - ヘ 金木禮附所
 - ト 金木銀行
 - チ 雲祥寺
 - リ 金木村議事堂
 - 又 金木警察分署
 - ル 金木郵便局
 - ヲ 神社八幡宮
 - カ 照蓮院
 - ヨ 隔離病舎
 - 夕 明治高等學校
 - シ 藤枝小學校
 - ソ 金木第三尋常學校
 - ツ 村社保食神社
 - 子 金木第三尋常學校
 - ナ 村社三柱神社
 - ヲ 養川原



金木第一尋常小學校



神田橋落成式ノ光景

金 木 村 志

目 次

金木村……………	(一)	金木第三尋常小學校……………	(二三)
金木村治……………	(二)	明治高等小學校男子同窓會……………	(二五)
金木村役場……………	(三)	明治高等小學校女子同窓會……………	(二六)
金木村有財産……………	(三)	日曜學校……………	(二六)
金木村財政……………	(五)	圖書縦覽所……………	(二七)
村有林經營の狀況……………	(七)	金木村尚武……………	(二七)
金木村名譽職員……………	(八)	金木尚武會……………	(二七)
金木村消防組……………	(九)	帝國在郷軍人會金木村分會……………	(二八)
金木村衛生……………	(一〇)	金木村産業……………	(二八)
金木村善行者表彰……………	(一一)	金木村農會……………	(二八)
官署……………	(一三)	金木村産馬組合……………	(二九)
金木警察分署……………	(一三)	金木村産牛組合……………	(三〇)
五所川原區裁判所金木出張所……………	(一五)	金木村家禽協會……………	(三〇)
金木郵便局……………	(一六)	金木村苹果栽培ノ沿革……………	(三一)
金木村教育……………	(一八)	金木村副業……………	(三一)
明治高等小學校……………	(一八)	耕地整理……………	(三一)
金木第一尋常小學校……………	(二〇)	金木村商業……………	(三三)
金木第二尋常小學校……………	(二二)	金木村商業ノ狀況……………	(三三)
		金木村商業協會……………	(三五)
		金木村交通機關……………	(三六)

金木村輸出米組合……………	(三七)	金木村沿革……………	(五三)
金木村各種團體及會合……………	(三八)	附 錄	
金木青年會……………	(三八)	日本赤十字社金木分區……………	(五五)
金木村振興會……………	(三九)	愛國婦人會金木分區……………	(五五)
金木少年養生會……………	(四一)	金木八景の歌……………	(五六)
金木村地主會……………	(四一)		
森林保護組合……………	(四三)		
大谷派婦人法話會金木支部……………	(四四)		
金木村勸儉貯蓄……………	(四四)		
節酒會郵便貯金組合……………	(四五)		
金木勸檢貯金會……………	(四五)		
日露戰爭紀念組合貯金……………	(四五)		
寺町義金貯蓄……………	(四五)		
神社佛閣……………	(四六)		
郷社八幡宮……………	(四六)		
村社三柱神社……………	(四七)		
金木山雲祥寺……………	(四七)		
金龍山南臺寺……………	(四八)		
青蓮山妙乘寺……………	(四九)		
明日山昭蓮院……………	(四九)		
天理教金木宣教所……………	(五〇)		
金木村招魂碑……………	(五一)		
賽の川原……………	(五三)		

金木村

金木村は青森縣北津輕郡の中央に位する一郷にして大字は五區に分れ金木、川倉、藤枝、蒔田、神原と云ふ明治四十三年末戸數七百七十一戸人口五千三百三十七人内男二千七百四十一人女二千五百九十六人面積東西二里南北一里二十町にして水田五百六十八町八反四畝二十四歩畑八十町八反九畝十六歩宅地四十七町四反八畝二十三歩山林原野等七百三十五町八反三畝十五歩を有し其他四千餘町歩の官有林野あり而して東は青森市を距る八里南弘前市を距る十里北小泊湊を距る九里にして貨物産物の輸出頗る便なり加ふるに本村は土地高燥肥沃南西は田畑を以て園み東北は廣漠たる山野にして空氣清く東方は大倉岳を眺め南方は岩木山を望みて天然の風光愛すべきものあり又金木川の流域は大字金木と幾多の水田を経て岩木川に注けり維新前は御役所を此に置き金木組二十五ヶ村を管轄し御藏奉行を置きて金木組の内十ヶ村及金木蒔田十八ヶ村に於て一萬二千石を總轄せり

◎金木村治

金木村役場

金木村大字朝日山三百八十七番地ノ二號にあり明治十六年の新築にして自治制施行以來村長の交代八回助役の交九回なり現

村長今平次郎は明治四十一年二月七日選舉せられ助役高橋良三郎は明治四十三年選舉せられ收入役柴田實外初期五名雇員二名使丁二名を以て組織し専ら村治に執掌せり

左に自治制施行以來の村長助役を掲ぐ

村長	木村岩五郎	福士莊太郎	白川 重治
助役	野呂雄之助	(再)福士莊太郎	安田 全逸
	花田 一色	(現)今平次郎	
	高橋昌五郎	新岡 豊	長内 亮
	野呂寅太郎	(再)長内 亮	野呂雄之助
	松尾 友義	安田 全逸	(再)松尾 友義
	(現)高橋良三郎		

金木村有財産(明治四十四年九月現在)

一、學校敷地	七反一畝十八歩
一、學校建物	三棟 六百一坪五合
一、隔離病舎敷地	六畝歩
一、隔離病舎建物	一棟 七十三坪五合
一、御眞影奉置所建物	一棟 一坪
一、金木村議事堂建物	一棟 四十一坪二合五勺
一、役場敷地	六畝六歩
一、役場建物	一棟 五十二坪
一、村基本金	百六拾五圓貳拾八錢四厘
一、村有農工銀行株式	壹千圓

金木村財政

明治四十三年度金木村歳入豫算高壹萬壹千六百拾壹圓七拾五錢六厘にして歳出經常費豫算高金七千八百拾壹圓八拾壹圓八拾貳錢六厘臨時費豫算高五千貳百四拾九圓九拾參錢なり其内村税として賦課すべき金額壹萬貳千八百八拾六圓八拾八錢九厘にして課税種目及課税率を擧ぐれば左の如し

一、地 價 割	一、三七〇、四一九
二、國稅營業稅割	一四九、三一
三、所得稅割	一九〇、三九〇
四、縣稅營業稅雜種稅割	一、一六三、一七八
五、別 割	九、三一三、五九一

本年度宅地租七百七拾六圓八拾八錢五厘壹圓に付九錢田畑地租六千五百五拾四圓七拾錢壹圓に付貳拾壹錢雜地租四拾四圓五拾壹錢五厘壹圓に付拾八錢

同國稅營業稅豫算高九百九拾五圓四拾錢六厘壹圓に付拾五錢即ち本稅の十分の一、五

同所得稅豫算高千貳百六拾九圓貳拾七千壹圓に付拾五錢即ち本稅の十分の一、五

同縣稅營業稅雜種稅豫算高千貳百九拾貳圓四拾貳錢壹圓に付九拾錢即ち本稅の十分の九

同縣稅戶數割豫算高九百參拾八圓八拾七錢壹圓

一、救濟資金基本金	貳百八拾六圓拾錢六厘
一、學校基本財産積立金	五拾壹圓參拾九錢
一、公會場	一棟 參十五坪
一、消防機械置場	五棟 十七坪
一、川倉巡查駐在所	一棟 七坪五合
一、種馬種附所	一棟 四十六坪二合五勺
一、種馬種附所敷地	四反八畝二十五歩
金 木 區	
一、土地	三百八十町六反六畝二十七歩
一、積立金	八百七拾九圓九拾參錢五厘
一、公債	四千九百圓
川 倉 區	
一、土地	二百五十五町三反五畝十三歩
一、積立金	百四拾圓八拾四錢八厘
一、公債及債券	參千五百五拾圓
藤 枝 區	
一、金	八拾參圓六拾參錢
蒔 田 區	
一、土地	四町一反五畝八歩
一、金	五拾六圓七拾六錢參厘
神 原 區	
一、土地	四反六畝二十三歩
一、金	貳拾壹圓八拾九錢六厘

に付九圓九拾貳錢即ち本税の九倍九分貳厘

明治四十三年度に於て取扱ひたる國縣税の額を擧ぐれば左の如し

一、金六千九百八拾壹圓六拾五錢	地 租
一、金千五百八拾五圓八拾貳錢	所 得 税
一、金千四百四圓五拾七錢	營 業 税
一、金 参 圓	賣藥營業税
合計金九千六百七拾五圓四錢	縣稅地租割
一、金貳千九百七圓五拾貳錢	營 業 税
一、金四百五拾壹圓貳拾壹錢	雜 種 税
一、金千貳百四拾參圓五拾四錢	戸 數 割
一、金千七百七圓貳拾六錢	營業稅附加稅
一、金百四拾六圓壹錢	所得稅附加稅
一、金百六拾圓七拾參錢	
合計金六千拾六圓貳拾七錢五厘	

村有林經營ノ狀況

本村の民有山林原野面積七百三十五町八反三畝十五歩なり此地たるや數十年來の荒蕪地にして曾て植林等のことなかりしか明治三十六年金木川倉の二區へ植林事業を行ふことを計畫し或は苗木を購入し或は縣廳より下附を得て始めて植栽をなせしは同年なりき夫より引續き年々植林を行ひ本年即ち明治四十三年に至るまで八ヶ年間に植栽せるも左の如し

金 木 區	八萬一千本
杉	拾萬五千七百本
松	五千本
扁 柏	千六百本
落葉松	二千本
檜	六萬五千本
川 倉 區	一萬五百本
松	四千五百本
扁 柏	一千本
落葉松	

金木村名譽職員

金木村長	今 平次郎	助役	高橋良三郎
村會議員	津島源右衛門	津島忠次郎	高橋彌左衛門
	長内 亮	丹場 惣吉	津島 久吉
	白川 重治	中谷子之助	原田久太郎
	傍島桓之助	前田吉太郎	大橋友三郎
公民より選挙せられたる學務委員左の如し	津島忠次郎	伊藤 豊吉	長内 亮
	中谷 清水	田中 要吉	

金木村消防組

明治二十年より大字金木にのみ私立消防組ありて阿部兵太郎頭取なりしか同二十七年七月消防組に関する勅令の下之れを廢止すると同時に従來備付の機械器具は悉く村へ寄附し頭取一人小頭二人消防手五十人を以て此に公立金木消防組の組織をなせり

明治三十三年より川倉、藤枝、蒔田、澤部の數部落に於て各自私立消防組の如きものを組織したるも維持上の關係より同四十年迄に器械器具を悉く村へ寄附せり此に於て金木消防組の組織を改めてり

明治二十七年公立消防組々織の始め頭取は福士傳八なりしか爾後高橋彌右衛門、阿部兵太郎等の更迭あり同三十一年より現在伊藤豊吉其任に當れり
同三十三年より小頭及消防手を増員して各大字より募集することとせり

同三十七年より従來の不便なる器械を廢し唧筒を購入し各大字部落四ヶ所へ支部を置き器械置場を設け唧筒其他の器械器具を配置し大字金木は頭取自ら管理し他部落は十人長を以て之を管理せしむ
現時の消防組員は頭取一人小頭四人消防手百人（十人毎に長一人を置く）なり

金木村衛生

明治十一年十二月青森病院金木分病院を建設し同十二年名稱を公立病院と改め醫師二名司計係一名幹事二名病院係四名を置き維持し來りしか同三十年公立病院に關する規則實施せられ經費の關係より之れか組織を解き金木醫院と改稱して建物を無料貸付と爲し毎年若干の補助金を交付して醫師の自營に一任す現在の主任醫は鳴海裕清にして同四十四年四月より開業せり是迄本村に開業したる醫師數名ありしも何れも數年ならずして他に移轉し目下開業を繼續するものは奮來より本村に居住せる岡本豊太郎一名あるのみ
隔離病舎は明治三十二年の建築にして其工費金八百圓なり事務室消毒室其他傳染病豫防上設備稍整頓せり而して建設以來收容したる患者の數を擧ぐれば左の如し
赤痢患者十七人 内 死亡者 四人

金木村善行者表彰

輕佻浮華の弊を矯正し醇厚篤實の風を養成する目的を以て明治四十三年三月善行者表彰規程を設け既に第一回表彰を行ひたり則ち本規程の要項既に第一回表彰を行ひたり則ち本規程の要項升に表彰せられたる人名左の如し

一、本村民にして左記各項に該當するものは衆蔗の模範として

其善行を表彰す

- 一、素行正しくして一家輯睦のもの
- 一、質素にして奢侈に流れざるもの
- 一、諸税の納期を違はず完納するもの
- 一、職業に忠實精勵するもの
- 一、公共心に富み德行卓絶なるもの
- 一、農事上手入仕舞の能きもの
- 一、學生其他の兒童にして品行方正親に孝行なるもの

第一回表彰人名

金木村大字金木
同村大字同
同村大字神原
同村大字川倉
各通以上四名乙種
金木村大字金木
同村大字時田
同村大字藤枝
角通以上三名丙種

徳田 儀助
古川小三郎
前田菊次郎
白川 重吉
小林 長太
田中 角彌
三橋運次郎

表彰状

資性篤實闔家克く輯睦し勸儉以て身を持し信愛以て衆に交り又納税の義務を重し末た曾て愆りたることなく其稼穡に於けるや耕耘收穫時期を誤たず力行多年一日の如し其善行洵に衆多の模範とするに足る仍て金木村善行者表彰規程に依り所定の徽章

にして巡查部長三上義信外一名以下巡查十四名ありて部内警察事務を掌る而して開設以来の署長を擧ぐれば左の如し

明治八年十月	十五等出仕	脇山 義保
同 九年五月	四等巡查	成田孫九郎
同 十年三月	三等巡查	伊藤永太郎
同 十一年三月	警部補心得巡查	右 同人
同 十八年四月	同 上	山田 幸輔
同 十八年十月	警部補	齋藤 漸
同 二十年九月	同 上	中島 義一
同 二十一年十二月	同 上	久保 貞治
同 二十四年七月	警部	石黒熊三郎
同 二十六年一月	同 上	小山内逸郎
同 二十六年十月	同 上	岩崎 岑一
同 二十七年九月	同 上	川村 盛實
同 二十七年十二月	同 上	寺田 毅志
同 二十八年八月	同 上	木戸 道眞
同 三十年八月	同 上	櫻庭 負一
同 三十一年四月	同 上	岡子 筍
同 三十二年三月	同 上	兒玉 義孝
同 年十二月	同 上	柴田忠之助
同 三十六年七月	同 上	下山 庸三
同 四十年六月	同 上	能登谷誠一
同 四十年十一月	同 上	大島 富八

(及シャフル一挺)を贈與し茲に之を表彰す

明治四十三年十一月二十日

北津輕郡長正七位勲六等 樋口兵次郎
備考 乙種のものには徽章及シャフル壹挺丙種のものには徽章のみとす

官署

金木警察分署

金木村大字朝日山四百四十九番地にあり明治八年十月の設置にして所轄區域は金木、嘉瀬、喜良市、武田、中里、内潟、相内、脇元、小泊の九ヶ村なり初め明治八年より同十一年二月までは同字四百四十六番地村田彌兵衛居室の一室を借り金木村第三巡查屯所として事務を執りしか同十一年三月より同字四百三十番地芳賀清四郎居室の一室に移轉金木分署と改稱同十九年より第一小泊第二中里の二ヶ屯所をも合し之れを管轄せしめたり同二十一年分署長中島義一は分署の新築を企て所轄各村より寄附金参百六十八圓餘を募集して起工せしか未だ工を竣へざるに同年十二月弘前裁判所へ出向を命せられて赴任し後任分署長久保貞治在職中同二十三年九月新築落成せり現今の建物則ち是なり

明治三十七年八月より所轄内小泊巡查駐在所へ巡查部長派出所を設け外巡查駐在所八ヶ所を置く現時署長は警部奥寺留次郎

同 四十二年一月	同 上	藤田政五郎
同 年九月	同 上	野呂亥三郎
同 四十四年一月	同 上(現在)	奥寺留次郎

五所川原區裁判所金木出張所

金木村大字金木字朝日山三百二十一番地の二號にあり始め明治二十二年金木登記所として村役場内に設け所轄は本村限りなしか二十一年五所川原區裁判所金木出張所と改稱して嘉瀬、喜良市、金木、武田、中里、内潟の六ヶ村を管轄せり同年十月本村に於て字朝日山の民有地を借受け廳舎を新築し獻納したるに依り之れに移轉せしか後同三十六年本村有志者現今の敷地を獻納し此に再び改築移轉するに至れり而して現主任は裁判所書記木村藤太にして雇員一名と共に事務を掌る開廳後一ヶ年間に於ける最初の取扱件數四十件なりしか同四十三年度に於ては三百三十三件を算するに至れり

左に開所以来の主任書記を擧ぐ

明治二十一年十月二十日	拜命	佐藤 肅
同 二十八年二月二十六日	拜命	石井 忠彰
同 三十年七月十五日	拜命	大關 茂吉
同 年十月二十九日	拜命	尾坂 鑿三
同 三十三年九月七日	拜命	山崎精一郎
同 四十三年三月三十日	拜命(現在)	木村 藤太

金木郵便局

余木村大字金木字朝日山四百二十一番地にあり現局長蝦名元太郎にして事務員三名集配人五名遞送人四名にて郵便及電信事務を掌り

本局は明治七年十二月の設置にして金木郵便取扱所と稱す同月十六日付を以て野呂雄之助郵便取扱役申付られ其事務を掌ることとなり此に始めて郵便の制度を布かれ嘉瀬、喜良市、金木、富野、大澤内、繁田を管轄し明治八年一月十二日金木郵便局と改稱同十八年十月ノ爲信、貯金、事務開始同二十五年十二月十五日局長野呂雄之助以来免官同年同月十六日蝦名元太郎局長に任命現地に移轉せり

同二十九年十一月小包遞送事務開始明治三十二年十二月二十六日電信事務開始して金木郵便局と改稱而して大澤内は中里局へ繁田は車力局の所轄となる同三十六年四月一日官制改正に依り金木郵便局と改稱せられ同三十七年規約貯金特別取扱事務開始せり

金木郵便局設置以来局長左の如し

明治七年十二月十六日 拜命 野呂雄之助
 明治二十五年十二月十六日 拜命(現任) 蝦名元太郎

金木村教育

我が金木村の教育に關しては從來學校等の設けなく僅かに神職笹木千影の祖先より累代寺小屋式の教授に依り子弟を教育しつつありしが明治九年小學校を創設し同二十三年小學校令制定せられしより教育上の設備年を追ふて漸く完備せり尤も就學歩合の如きに至ては近時著しく進歩し同四十三年末の調査に依れば學齡兒童男百に對する九九、四二女八六、六七男女平均九三、八三なり而して高等小學校は明治二十九年金木第一尋常小學校より新築の校舍に移轉せり爾來各校とも精勵生徒に商品を授與して就學及出席を奨勵せられ又開業醫岡本豊太郎に學校醫を囑託して部内小學校の衛生を掌らしめたり各校施設の大要左の如し

明治高等小學校

本校は明治二十六年の創立にして金木、嘉瀬、喜良市、武田の四ヶ村組合より成り金木第一尋常小學校の一室を借りて教場に充て来りしか同二十九年大字金木の北端なる字芦野の内縣道に沿る渺茫たる平野に校舍を新築して之に移轉せり其敷地九百坪建築費千百圓なり同二十九年末生徒百十七名教員三名經常費四百八拾貳圓なりしか同三十五年に至り生徒の數増加して二百三十名となり是か増築費參百五拾圓經常費千七百參圓五拾壹錢四厘に上り同三十九年に至り生徒の數溢増加して二百八十名

以上に達し之を六學校に編制し教員七名(内裁縫專科教員一名)を置き次て校舍を増築せり其増築費七百四拾七圓經常費千九百五拾六圓五拾貳錢の多額を算するに至れり修業年限四ヶ年なるを尋常小學校義務年限延長の結果二年に縮少せるか同四十四年四月より三年に延長せり

創立以来校長左の如し

明治二十六年七月 拜命 校長 坂本 紋作
 同 三十二年六月 同 同 佐藤 象一
 同 三十五年七月 同 同 横岡慶五郎
 同 三十六年四月 同 同 (再) 佐藤 象一
 同 三十六年十月 同 同 相馬 彦藏
 同 四十一年四月 同 同 古川 武英
 同 四十一年八月 同 同 工藤千賀五郎
 同 四十四年四月 同 同 (現) 清野直太郎

金木第一尋常小學校

本校は明治九年の創立にして初め敷地を借受け校舍を建築して經營し来りしか小學校令實施に伴ひ國民教育の普及を計らんか爲め同三十五年巨額の金を支出して字菅原(舊御藏屋敷)へ敷地八百十七坪を講求し完全なる校舍を新築せしに漸次生徒増加し教室狹隘を告ぐるに依り同四十一年度に於て更に敷地五百八十二坪を購ひ校舍の増築をなしたり同四十三年末の調査に依れば敷地千三百九十九坪建物四棟にて四百三十九坪學校八學校

教員八名生徒四百二十一名の盛況を見るに至れり而して本校の位置は大字金木の南端にて東は縣道に沿ひ北は金木川の清流に臨み西南は茫々たる田圃にして遠く岩木山を望み光線の透射空氣の流通共に宜しきを得たる最も好位置なり

明治二十五年十二月二十七日

御眞影を拜頂し同四十一年奉置所を建築して奉遷式を擧ぐ又同三十九年より基本財産及紀念林として本校の周囲には櫻松五百本を植え造林地としては金木區有地を借入れ松杉扁柏の類五千本植栽せり

創立以来の校長左の如し
 明治九年 拜命 校長 八木貞之助
 同 年 同 同 西山 留吉
 同 十六年 同 同 今井 武一
 同 十八年 同 同 竹森熊次郎
 同 二十三年 同 同 成田三千郎
 同 二十四年 同 同 對馬 稱美
 同 二十五年 同 同 坂本 紋作
 同 二十七年 同 同 工藤 隆
 同 二十七年 同 同 古川 武英
 同 二十八年 同 同 (現) 三上鋭次郎

金木第二尋常小學校

本校は明治十二年の創立にして初め川倉藤枝各一校を維持せ